

令和6年6月26日

乳製品需給等情報交換会議における御意見

東宗谷農業協同組合

- 系統外の飲用向けが増えてきており、我々としては、できるだけ乳価の高い飲用向けとして出荷したいが、道外移出により系統の生乳が加工向けに回っている問題がある。
- 直近の管内の生乳生産については、厳しい酪農生産現場の情勢から、生乳生産中止者や昨年の猛暑の影響による分娩時期のズレが生じており、前年を下回る水準となっている。
- 今後の生乳生産については、受精時期の期ズレから一時的に分娩頭数が多くなる見通しもあるが、今年度の自給飼料生産や夏場の気温がどの様に生産と需要に影響するかは注視してゆく必要がある。
- 目下、道北の気温は低いが、これから暑くなる。昨年の猛暑を踏まえて北海道でも対策を始めているが、牛舎の換気構造を変えるのに時間がかかる。
- 国産バターを供給したいと思っているが、同時に2倍の脱脂粉乳が生産される。製造比率に見合った消費をしてもらう必要があり、乳業メーカーと協調対策の中で対応している。北海道では10月から成分価値の見直しによりバターの価値比率を上げる一方で、脱脂粉乳の価値比率を下げて、取り組んでいる。
- クラスター事業が止まり、酪農家の投資も止まっている。投資が止まると、その後の生乳生産量がさらに減少する恐れがあり、悪循環になっていく。生産を安定させるためには投資が重要である。
- これまでは価格が安いので輸入バターが使われていた面があると思うが、(輸入品の価格が高くなってきたので、) 国産バターの味の良さを知ってもらう良い時期でもあると捉えている。そのような中、脱脂粉乳とバター需要の跛行性の問題で苦労しているが、生産量を守るためにもこの2、3年で改善していかなければならない。

ホクレン農業協同組合連合会

- 我々、生産者としては、これまで生乳需給の改善を図るべく、生産抑制や乳製品在庫対策を行ってきた経過にある。
- 昨年においては、猛暑により生乳生産量に大きな影響があった経過にあり、その影響は、授精の期ズレ・受胎率の低下からも今年度の春産み分娩に影響が出ている情勢にある。一方、今後においては分娩頭数が増加する傾向にある。
- また、生産資材高騰も生乳生産に大きな影響を与えていることも事実であり、国内の生乳需要に対しては、国内で供給してゆく事が、食料の安全保障、安定供給を進めるうえでも、生産基盤を確保する事が重要であると考えている。
- 酪農生産者の経営環境が厳しいなか、バターと脱脂粉乳の需要の跛行性が継続してお

り、これまで大きな負担を行いながら、バターの安定供給に向けた生乳生産を進める一方で、脱脂粉乳の在庫は令和5年度末では大きく改善されたものの、なんら対応を講じなければ、年度末に向けて再び積み増す試算となっている。

- このことから、全国協調の脱脂粉乳在庫対策を行う中で、バターを始めとした生乳需給安定が図られていると認識している。
- 北海道においては、バターと脱脂粉乳の需要の跛行性に対し、脂肪分と無脂乳固形分の成分価値比率の見直しを行い、脂肪分向上への対応を進め跛行性の改善に取り組むこととしている。
- バターの安定供給のためには、生産基盤の安定が重要であり、生乳需給の安定に向けては、やはり脱脂粉乳の需要の問題があり、中長期的な視点での対応をお願いしたい。
- なお、これまで飲用向け生乳需要は前年割れの傾向が継続して発生しており、全国の生乳生産量によっても左右されるが、都府県を含めて乳製品向け仕向け生乳が増加することも想定する必要がある、特に年末年始に向けては、加工向けが大幅に増加することが懸念される。
- また、多様化する生乳流通により需給調整負担の偏りが、生乳の需給調整をより難しくしている。
- 業界の需給見通しにおいては、年度末のバター在庫は昨年度末とほぼ変わらない見込みとなっており、生産者団体としてはこれまで対策を行ってきた背景も踏まえれば追加輸入の必要性は感じていない。供給不安への対応とのことだが、生産者の不安もあり、今回の案は生産者にとっては非常に重たいもの。更なる輸入が価格形成に及ぼす影響や国内需給を不安定にさせることへの懸念もあり、取り進めについて国の責任のもと対応頂けるよう強く申し入れる。

一般社団法人中央酪農会議

- バターの不足により実需者が代替品に切り替えると需要が戻らなくなるため、バターの国内市場への安定供給の重要性については、十分理解している。また、農林水産省で、こうした課題を受け止めて頂き、ご対応頂いていることも十分理解しているが、諸手を挙げて賛成と言いたいことは理解いただきたい。
- 国内のバター市場にはなるべく国産を供給したい一方で、脱脂粉乳の在庫が過大になっているため、指定団体に出荷する酪農家に数量的・金銭的な負担をお願いし、対策を行ってきた。脱脂粉乳の需要量がバターを下回る中で、脱脂粉乳に配慮した生産にしなければならないという構造が一番の問題と考える。
- 生産者団体では、国産脱脂粉乳の消費拡大にも尽力しているが、製品を製造していない生産者団体では、実効性には限界がある。製造者がきちんと販売していくことが重要だと思うので、農水省からの指導を改めてお願いしたい。
- 需給が想定よりも緩和した場合には、適切に、速やかに輸入量を調整するようお願いする。
- 先ずは、バターと脱脂粉乳の需要格差の解消が図られ、指定団体に出荷する酪農家が

リスク負担から解放されるよう、農水省からの適切な業界関係者への指導・ご支援と実現のほど、宜しく願います。

一般社団法人日本乳業協会

- 本年度は生産抑制なしで生産が行われるため、生乳生産は前年度並みないし前年度をやや上回るものと予測。
- バターについては、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い行動制限がなくなりインバウンドも回復し、需要は回復して在庫水準はやや低下。
- 他方、資材費高騰等を受けて価格改定を行ったこと、輸入価格の上昇等から植物性脂肪への需要移行の懸念はあるものの、在庫の減少から乳業者は販売促進費の投入を自粛するなど販売面に対応。
- 脱脂粉乳については、引き続き需要は低迷し、依然として需給は緩和傾向が継続。
- 生乳生産及び飲用向け生乳需要の動向を踏まえると、バターについては、最需要期の年末においても必要量のバター在庫は確保されるものと推測。
- ただし、想定を超えるような事情の変化が起きないとは限らないため、ホエイ等の乳製品の輸入枠が消化されない場合は、バターに振り替えて入札を行うことや、来年度の輸入についても早めに対応するなど、情勢の変化に応じて柔軟かつ迅速な対応をお願いしたい。

一般社団法人Jミルク

- 飼料価格など生産資材価格の高止まりを背景に、酪農生産者の厳しい経営状況が続いているが、前年に実施された生乳生産抑制の解除を受けて、2024年度は前年を上回る生乳生産量と見込んでいる。しかし、昨年夏の酷暑による分娩への影響が懸念され注視が必要である。
- 一方、需給面では、飲用需要の低迷などに伴い、脱脂粉乳の今年度末在庫量は増加する見通しであり、今年度も引き続き在庫削減対策の継続が求められる状況にある。また、バターは供給制限を継続しているが、昨年度の乳価値上げの影響もあり、需要は比較的落ち着いており、今年度末在庫量は昨年度末とほぼ変わらない見込みだが、単年度で需要量が供給量を上回るギャップは継続している。こうした脱脂粉乳とバターの需要不均衡の構造的課題について、生・処協調の在庫削減対策の着実な実行とともに脱脂粉乳の需要拡大に向けた対応が欠かせないと考えられる。
- また、特に夏季の気温等の状況によっては、特にアイテム別に見た場合の家庭用やポンドバターの乳製品需給に大きく影響を及ぼす可能性があることから、十分注視する必要があるとともに、国家貿易の適切な運用を含めて、製品の安定供給に努める必要がある。

卸売業者

【業務用】

（バターについて）

- 昨年より国産業務用バターの供給量はカットされており、大手加工メーカーは輸入品も含め他の脂肪に置き換えられている。
- 今期さらなるカットは今のところ発生しておらず当面は前年並みの供給で推移している。
- 円安の影響もあり国産バターの引き合いは大手加工メーカーより引き続き受けているが、為替が改善すれば多くの加工メーカーが輸入品に置き換えると予想される。
- 一部国産原料を指定している大手加工メーカーも主要商品に国産原料を集約して使用し、それ以外（PB品等）は輸入バターに置き換えを試みている。
- 中小規模の需要家はバターの代替品を使用せず、バターを主力商品に集約し、他の商品を終売することで対応しているメーカーも散見される。
- 国産バターの供給量が改善したとしても中小加工需要家は人手不足、他の原料、包材の高騰も鑑み、終売した商品を再開するかは不透明であり、その為にも国産バターに対する安定供給に取組まないと、大手加工メーカー、中小需要家共に国産バターから離れてしまう可能性があるため、今後更なる供給バランスの改善を望む。

（脱脂粉乳について）

- 大手加工メーカーも乳牛の出生率が下がっていることから今後供給不足になることは把握されており、円安で輸入脱粉の価格が高くても併用する準備は出来ているが、乳業メーカーの供給が絞られていることから、国産指定の加工メーカーは来期供給不安を予想して供給先（乳業メーカー）を探している加工メーカーもある。
- ただ、今期スポットで供給できる乳業メーカーはあるが、来期も安定して同じ物量を継続できるかは明確な回答をしていない。各メーカーとも様子見の状況である。

【家庭用】

- 市販用バターは前回の報告同様、売場におけるバター欠品は無く、供給は順調であると認識している。
- バター納品率は98.6%以上を維持しており、弊社の実績は堅調な動きを見せている。
〔（※）「納品率」 ＝ 「小売店への納品数量」 ÷ 「小売店からの発注数量」 〕
- 2024年4月、5月と金額は伸長（市場・弊社）。数量については、2024年4-5月累計にて昨対増であるものの、金額と数量の伸び方には乖離があり、需要が高まっているとは言えない。
- 主要メーカー様のバター在庫需要予測は、年内までは欠品はしないという声が多い。
- これはあくまで家庭用商品に限ったことであり、業務用商品については変わらず逼迫の状況にあると聞く。
- 現時点における供給体制は概ね問題ないと判断しているが、天候不順、猛暑、離農などによる原乳不足や、外食需要・インバウンド需要の拡大といった懸念事項もあり、引き続きバター動向には最大限留意しながら、需給調整の一翼を担うべく尽力していく。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- 乳製品を含むスーパーマーケットの日配カテゴリ売上高、前年同月比（既存店ベース）は、2022年10月から2024年5月まで20ヵ月連続で前年を超過する好調な動向が継続している。
- 食品値上げが相次ぐなか、日配カテゴリは値上げによる一品単価の上昇が大きいカテゴリとなっている。
- そのなか牛乳・乳製品については、好調な販売動向の報告が多く、前年より増加している企業も少なくない。

一般社団法人全国消費者団体連合会

コメントなし。

一般社団法人日本パン工業会

（バターについて）

- 輸入品のひっ迫感は引き続きある。ただ、価格は、為替相場の関係もあり、国産品を上回っている。国産品を使用したいが、昨年のような猛暑が続いた場合の供給面の不安もある。輸入枠を拡げていただきたい。

（脱脂粉乳について）

- ひっ迫感はなく、価格も安定している。引き続き、安定した供給をお願いしたい。

協同組合全日本洋菓子工業会

- 足下で大幅な不足が生じているとの声は少ないが、国産バターを使用している事業者の中には、直近でも前年比▲50%の供給減を通知された企業もあり、全体として国産バター需給のひっ迫感は続いている。卸業者との取引関係等から、企業によって多少の差異はあるが、今後の供給不足を懸念する声は引き続き多い。
- 国産バターの供給不足に対し、輸入バターや代替品への切替え、製造する製品の種類・内容・量の調整等に対応しているが、品質、味を維持するには限界があり、また、輸入バターの価格上昇もあり、苦慮している企業は多いとみられる。
- 価格については、調査した全ての企業が「高止まり」「上昇が続いている」との回答であり、洋菓子業界では、原材料の中でも使用割合の高いバターの価格高騰は企業収益の圧迫要因になっている。
- 容易に代替品等に切替えすることが難しい洋菓子業界にとって、特に国産バターの安定供給と価格の安定は喫緊の課題であり、量と価格両面の問題の原因となっている国産バターの需給の緩和に一層注力いただきたい。

一般社団法人日本洋菓子協会連合会

コメントなし。

全国菓子工業組合連合会

- 人流回復に伴い、菓子業界の需要は回復してきているが、乳製品を含む各種菓子原材料費や人件費の上昇が経営を圧迫している。
- 特に国産バター供給については、供給拡大が難しいと言われることが多く、特にチョコレート、ビスケットや洋生菓子の業態での生産回復の制約要因となっている可能性がある。
- 人流の回復に伴い菓子需要の増加が見込まれる中で、バターや生クリーム等の乳製品需要の増加が見込まれるため、十分な量の安定的供給を切にお願いしたい。
- 菓子では国産バターや生クリームの使用を特色としているものも多く、輸入バターで代替できない需要も存在するため、まずは、国産バターの増産と持続的な安定供給をお願いしたい。
- 輸入バターの価格が国産バターを上回るような事態が1年以上にわたって続き、供給力に限りのある国産バターへの需要を一層高めている可能性がある。輸入バターの価格上昇要因の一つは、マークアップの急激な拡大にあり、これは供給不足から生じていると思われるので、国産需要に応える上でも、バターの輸入量拡大をお願いしたい。また、マークアップを直接的に制限する仕組みの検討もお願いしたい。

(以上)